



病院長からのメッセージ 地域医療支援病院に認定されて

病院長 泉 良平

約1年半前に、このマガジンにて地域医療支援病院のことをお知らせしました。聞きなれない名前ですが、医療法によって、一般病院の中で地域医療を支援する機能を持つ病院が「**地域医療支援病院**」として県の承認を受け、その名前を呼称することが許されます。

富山市民病院は、地域医療を守ることを目的とし、地域の中で完結する医療の提供を目指し、地域医療部を創設するなどして5年間にわたり活動を行ってきました。その他、地域医療スタッフの研修の機会を作ることを目的として、地域連携ニュースなどにて、病院内で行われている研修会や講演会をお知らせし、広く開放してきました。そして、これまでの取り組みが認められ、富山県では初めての「**地域医療支援病院**」として承認されました。10月2日に行われました富山県医療審議会において、富山市民病院を地域医療支援病院として承認することについて全員一致にて異議なしとされました。そのことを受け、10月3日には、富山県の石井知事から「医療法第4条第1項の規定により、地域医療支援病院として承認する」ことが認められました。

地域医療支援病院とは、地域住民の皆様の健康を支援する上で必要な医療を、地域の医療機関の皆様と共に提供する病院です。地域医療支援病院に求められる機能とは、1) 救急医療の提供、2) 地域医療機関からの紹介患者さんに対する医療の提供、【これには、(1) 病院の病床を提供すること(市民病院には、開業医さんが利用できる「開放型病床」が30床準備されており、ほぼ100%の利用率です)、(2) 病院の高度医療機器を共同利用すること(CTやMRIなどを用いる検査を紹介患者さんに行っています)

があります。】このことによる、かかりつけ医やかかりつけ歯科医の支援、3) 在宅にて医療を受けようとする患者さんと在宅医療を提供する医師を支援すること、4) 地域医療の質を向上させるために、地域医療機関に勤めるスタッフ(医師およびその他の医療従事者)の研修を行うこと、などです。

そして、**地域医療支援病院**になるには、地域医療機関からの紹介率が60%以上であり、病院から医療機関への逆紹介率が30%以上であることが必要であり、この要件を昨年1年間の実績として達成いたしました。これまで、富山市民病院では、地域の紹介患者さんを受け入れるために、「ふれあい地域医療センター」を開設し、また、地域医療機関と病院を電子ネットワークで結ぶ「たてやま医療連携ネット」を稼働しています。このことによって、病院を利用される患者さんや地域医療機関スタッフの皆さんの利便性を図ってきています。

これまでも、当院は**地域がん診療連携拠点病院**として、がんに関する先進的な医療や、患者さん向けのがんに関する情報を提供しています。その他に、富山医療圏での**2次救急輪番病院**として救急医療を提供し、さらには、**富山地域リハビリテーション広域支援センター**としての役割、**災害拠点病院**、**感染症病床**による感染症への対応など、地域のために働いています。これからも、**地域医療支援病院**となることによって、地域医療を守り、地域の医療を支援する高いレベルの病院として市民の皆様のために働いてまいります。皆さんの温かい目を富山市民病院にいただくことをお願いいたします。

目次

■病院長からのメッセージ	1
「地域医療支援病院に認定されて」 病院長 泉 良平	
■特集	2・3
10月3日富山県内初 「地域医療支援病院」の承認を受けました!	
■イベント	4
「ふれあいセミナーを終えて」	
■連載	5
食と健康のたより 栄養科 「大根のミルクスープ」	
■イベント	5
「そば打ち実演イベント」	
■お知らせ	6
「院長への手紙」	
■連載	7
ボランティア・エッセイ46 「親への感謝」 病院ボランティア 石森貞夫	
■お知らせ	7
「緩和ケア病棟 ボランティア募集」	
■お知らせ	8
「がん患者・家族の教育講座」ご紹介	
■今月のふれあいギャラリー	8
■今月のイベントと院内の動き	8



ふれあいギャラリー:写真「京の紅葉」
(中村 勇さん)

特集

10月3日富山県内初

「地域医療支援病院」の承認を受けました!

「地域医療支援病院」とは

地域の医院や病院から精密検査または入院治療が必要と判断された紹介患者様、また救急患者様を中心に医療を提供する病院です。

具体的には、病気やけがの日常診療は、かかりつけ医が受け持ち、専門外来受診、検査、開放型病床および救急医療は当院の役割となります。

さらに、手術・救急の患者様を受け入れるベッドを常に確保するため、急性期の治療が終了した回復期の患者様は、退院後できるだけ地域のかかりつけ医に受け持ってもらいたいと考えています。

この連携の中核となる病院が、知事が承認する「地域医療支援病院」です。

当院は、地域の医院や病院などそれぞれの医療機関がその特性を活かし、役割分担することで、患者様を中心として地域全体で病気を治していく「地域完結型医療」を担う地域の中核病院です。

これからは「地域医療支援病院」として積極的に取り組み、医療機関・福祉施設・行政と協力し合い、最良な医療・福祉・保健サービスが提供できるよう努力してまいります。

“ふれあい地域医療センター”が窓口となり、皆様と密接に連携しています。

「地域医療支援病院」になることで患者さまのメリットは

1 「かかりつけ医」からの紹介患者様を優先的に受付

- ・ 紹介患者様の事前予約を受付します。
- ・ 紹介状をお持ちの患者様は、“ふれあい地域医療センター”で受付します。また、診療科へご案内します。当院が初めての方も安心して受診していただけます。

2 開放型病床への入院

- ・ 「かかりつけ医」と当院の医師が共同で患者様を診療することができる開放型病床があります。よりよい医療を患者様に提供でき、また、患者様は入院中もかかりつけ医の診療が受けられ相談もできますので、安心して治療が受けられます。

3 退院後の紹介・療養相談

- ・ 治療が終了し回復期の患者様は、退院後は



できるだけ「かかりつけ医」に診療をお願いします。

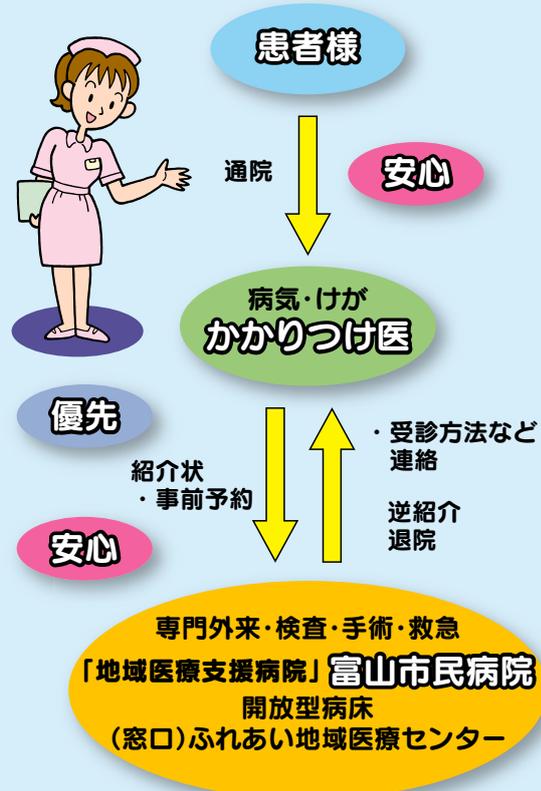
- ・ 退院後は自宅で療養したい、転院してリハビリを続けたい等病状に応じた療養ができるよう、専門の相談員が相談に応じます。

4 介護保険、訪問看護、福祉相談

- ・ 療養に必要な介護保険の申請や訪問看護などの在宅サービスの相談に応じます。また、身体障害者手帳の申請などの様々な福祉の相談に応じます。



左の流れを図に表します。



開放型病床…病院の施設・設備が、病院のある地域のすべての医師に開放利用されます。
かかりつけ医…開放型病院に患者様を入院させ、当院医師と共同で検査・治療（手術を含む）を行うことができます。富山市民病院の登録医師は約250名。

ふれあい地域医療センター…紹介患者様の予約や受付を行います。また、患者様・ご家族様からの療養に関する相談や地域の医療・福祉・介護・保健の方々、すべての皆様からのご連絡の窓口です。



「地域医療支援病院への期待」

医療法人社団城南会理事長
 富山市民病院名誉院長 黒崎 正夫

この度、富山市民病院が県内初の地域医療支援病院に認可されたことを、市民病院の運営に関わってきた者の1人として、大変嬉しく思います。

平成9年に医療法により、地域医療支援病院制度が定められてから今日まで、県内で手を挙げる病院がなかったことは、認可のハードルが高いこと、認可後の責任が重いことなどが理由だと思われます。地域医療支援病院の条件は、まさに地域中核病院の理想像と一致します。

市民病院は、終戦後の昭和21年に富山市医師会長主導の下に、市内の開業医師が集まって創設されました。以来、開業

医師や市民の間に気軽に利用できる病院として、親しまれてきた伝統があります。さらに、平成7年に開放型病床が県内の他病院に先駆けて認可され、富山医療圏医師会開放型病床として病診連携に努力してきた経緯があります。

いま、地域医療システムが混乱してきた中で、地域医療支援病院の役割を果たすことは、容易ではないと思います。今後、全職員協力の下に、市民病院の抱える課題を解決しつつ、地域から一層信頼される地域医療支援病院へ発展することを期待しています。

ふれあいセミナーを終えて

寺崎 靖

去る10月25日に「第17回とやま市民病院ふれあいセミナー」が開催されました。当日は晴天とはいきませんが、雨も降らず71名もの方にご参加いただきました。富山市民病院は、本年10月に富山県では初めてとなる「地域医療支援病院」として承認され、また「地域がん診療連携拠点病院」でもあることより、セミナーのテーマを「あなたと学ぶがん知識」としてシリーズで「がん」をとり上げてみました。ご存知のようにわが国の死亡原因で最も多い疾患は悪性新生物（がん）であり、年間約32万人の方が亡くなられています。その中の第1位が肺がんであり、約6万人の方が肺がんによって亡くなっています。そこで「あなたと学ぶがん知識」第1回目の今回は、「肺がんについてご存知ですか」と題して3名の講師の先生に「肺がん」についてご講演をいただきました。

泉院長の開会の挨拶の後、循環器科 清川裕明先生より「禁煙にトライ！」と題して肺がんとは切っても切れないタバコの有害性と禁煙の有用性をお話いただきました。その後、毎年好評のモルフェウス弦楽四重奏団によるミニコンサートが行われました。とても素晴らしい演奏で感動された方も多かったのではないかと思います。続いて呼吸器科 石浦嘉久先生より「肺がんの診断と治療—内科の立場から—」と題して主に肺がんに関する最新の抗癌薬治療についてお話いただきました。最後に胸部血管外科 瀬川正孝先生より「肺がん外科治療とCT検診」と題してCT検診の有用性と肺がんの外科手術につきお話いただきました。こうして予定されたプログラムはあつと

いう間に終了し、宮本副院長の閉会の挨拶でセミナー終了となりました。また廊下には17文字メッセージと専門分野の看護活動報告が展示され、多くの方が見入っておられました。

こうしてスタッフやボランティアの方々のご協力により、ふれあいセミナーは盛会のうちに無事終了することができました。ここに改めて皆様のご協力で深謝いたします。

大井真百美

当院の参加型セミナーは今年度で17回になります。今回は、「あなたと学ぶがん知識」として第1回目は死亡が第一の肺がんについてご存知ですか」テーマに致しました。がんの知識をより多くの皆様に知っていただきたく、共に学ぼうと計画を致しました。

今年度は昨年と比べ計測はなく、知識を主に講演を計画いたしました。参加された中には、毎年計測を楽しみにきていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、趣旨をご了解していただけたと思っています。

今回は71名の参加がありました。

参加された方はとても熱心に聞きいっておられました。

廊下には17文字メッセージと看護活動の発表を行いました。患者さま、14才の挑戦で看護体験に参加した中学生、看護体験に参加した高校生や一般の方、医療者から募集した「17文字メッセージ」では、心温まる言葉でほっとしますと好評でした。また、看護活動では、昨年から企画していますエキスパートナースによる「呼吸器看護」「救急看護」の看護活動を報告しました。また、健康管理科より禁煙についての資料提供、ふれあい地域医療センターよりがんのパンフレットなどをお渡し致しました。

当院は地域がん診療連携拠点病院です。また来年度4月に緩和ケア病棟も新設となりますので、今後がんシリーズで計画をしています。これからも内容を充実し、皆様へ情報を発信していきたいと思っています。ご希望がありましたらお聞かせください。お待ちしております。

市民の皆様とのふれあいを大切にしながら健康について一緒に考えて行きたいと思っています。ご協力ありがとうございました。



■連載 食と健康のたより「大根のミルクスープ」 (栄養科)

大根は、品種によって旬の時期が異なりますが、一般によく出回っている青首大根は、秋から冬（10月下旬～2月）にかけてが一番おいしい時期です。このころのものは甘みも強くみずみずしいです。

【材料（4人分）】

■大根	100g
■玉葱	100g
■人参	50g
■しめじ	1パック
■ベーコン	2枚
■コーン缶	40g
■バター	10g
■固形スープの素	2個
■水	400cc
■牛乳	400cc
■塩・こしょう	少々
■パセリ（みじん切り）	適宜



【作り方】

- ①大根は皮をむき、厚さ2cm程度のいちょう切りにする。玉葱は皮をむいて粗めのみじん切りにする。人参は皮をむいて1.5cm角に切り、しめじは小房に分けておく。
- ②ベーコンは2cm幅に切る。
- ③鍋にバターを溶かしてベーコンをいため、ベーコンから脂が出てきたら、①の材料与コーン缶を加えて炒め、塩・こしょうをふる。
- ④固形スープの素、水を加え、15分程度煮て、野菜が柔らかくなったら牛乳を加え、再び煮立ったら火を止める。
- ⑤器によそい、パセリのみじん切りを散らす。



【栄養メモ】

大根の葉は緑黄色野菜、根は淡色野菜です。葉の部分には、カロテン・ビタミンC・カルシウム、鉄分などが豊富に含まれています。根の部分には、でんぷん分解酵素（アミラーゼ）が含まれているため、食べ物の消化を促進し、胸焼け、胃のもたれ、二日酔いなどの症状に効果的です。胃の弱い人は、食事に大根おろしを添えて食べると消化がよくなります。昔から「もちの食べ過ぎには大根を食べるのが良い」と言われるのもこのような効果からきたものです。また、イソチオシアネートという辛み成分が

豊富に含まれており、血液をサラサラにする作用や殺菌作用があります。ビタミンCを多く含み、加熱調理すると体を温めるはたらきがあるので、風邪予防にも最適です。

けんちん汁やスープなどの汁物の具として、おでんの具、ふるふきだいこん、大根おろし、漬物・・・など様々な食べ方があります。

【上手な選び方】

葉が青々として、根にズッシリと重みを感じ、みずみずしく身の締まっているものを選びましょう。葉の部分にもたくさんの栄養があるので、新鮮な葉つきをかうようにして、炒め物やおひたしにするとよいでしょう。葉が切り落とされているときは、葉の切り口がみずみずしいものが新鮮です。

イベント

そば打ち実演イベント



栄養科では、そば職人による「そば打ち実演」を10月14日（火）～16日（木）に実施しました。そばの由来や美味しい食べ方の話をまじえながら、患者様やそのご家族の方にそば打ち実演を楽しんでいただきました。見学された方の中からは、実際にそば打ちやそばを切る体験をしていただきました。他の見学者の方からも拍手が起こるなど、和やかな楽しい雰囲気に包まれました。



昼食時には打ちたてのそばをお出しし、アンケートでは、見学されたすべての方に「楽しかった」と答えていただきました。また、そばをお出しした方のうち、8割の方に「美味しかった」「今後もこのようなイベントがあればよい」と答えていただきました。その他にも、もちつき、マグロの解体、お寿司など、楽しいイベントのリクエストもいただきました。

食べる喜びや楽しみ、食欲・意欲の向上に結びつけることがイベントの最も大きな役割と考え、今後も患者様に楽しんでいただけるイベントを継続していきたいと思っております。

食の安全について

当院では、病院食に使用する食品は、安全をモットーに産地や鮮度を重視して、選定しております。

食事作りは、旬の食材を活かすとともに、富山県産コシヒカリ100%にこだわるなど、美味しく食べていただくよう心がけております。今後も、美味しい米、新鮮な魚、野菜など地産地消に心がけ、食の安全に努めていきたいと思っております。

院長への手紙

「院長への手紙」にて、皆様から頂きましたご意見にお答えいたします。これからも、病院に関しますご意見を頂きますよう、お願いいたします。皆様からご意見を頂くことによりまして、病院を改善して参りたいと存じます。

「転院と連携クリニカルパス（連携パス）について」

ご意見

整形外科で転院を考えていますが、病院により治療法が違っているので、他院へ行ったら、転院施設での方法で治療を受けるように言われ、不安で一杯です。市民病院と同じ治療をしてもらうことは出来ないのでしょうか？

お答え

市民病院は、主に急性期の患者さんを治療する病院です。そのため、回復期になると他の病院などへ転院していただくことがあります。整形外科では、手術後のリハビリテーション治療を、他の回復期リハビリテーション病院などで受けていただくことを目的として、転院していただくことがあります。

そのような場合には、連携（クリニカル）パスを用いて、患者さんの治療が正しく継続されるよう配慮しています。連携パスは、市民病院と地域の医療機関との話し合いの中で決められたものです。具体的な、リハビリの内容やその達成度を測って、回復が順調に行われるように工夫されたものです。治療の内容と、行われる日時、回復の目安となる指標などが、きめ細かく決められています。連携パスは患者さんと共に、市民病院から地域の医療機関に伝えられ用いられます。従いまして、他

院へ転院されましても実際の治療内容には変化はありません。ただし、病院によって用いられる医療機器などが異なることがあり、回復の程度によっては治療内容が変更となることがあります。そのことの説明が、「他院での方法で」という説明になったものです。

病院と地域の医療機関との間では、定期的にこの連携パスについての連絡会議が行われています。その中で、改善することが必要なものなどについて協議され、皆様の治療がよりよく行われるようにしています。連携パスは、本年4月から脳卒中についても行われています。

市民病院は、地域医療支援病院に本年10月に富山県では初めて認定されました。地域の医療機関の皆さんと、患者さんの健康を守り支援することを病院の使命と考えています。その他にも、これからは、がん治療などでも連携パスが作られることになっています。地域がん診療連携拠点病院でもある富山市民病院は、がんの連携パスの作成準備を行っています。地域を一つの病院として、皆さんの健康を守ることを使命と考えていますので、ご理解をお願いいたします。

「整形外科診療の制限について」

ご意見

整形外科に見てもらいたいが、紹介状が必要と聞きましたが、どうしてでしょうか。理解できないが、総合病院として整形外科も診療できるようにお願いします。

お答え

高齢化と共に、骨折など整形外科治療を必要とされる患者さんが増えています。一方で、関節そのものを

置き換える手術や大腿骨骨折などの治療法が格段に進歩しています。そのために、整形外科医の仕事は大変多くなっているのが現状です。市民病院では、全ての患者さんを断らずに診療するように努力してきましたが、整形外科に関しましては、医師の負担を減らすことが必要であることから、紹介状を持ってこられる方を優先的に診療することとさせていただいています。

それまで多くの患者さんを制限せずに外来で診療していた場合、本来の整形外科医の仕事である手術を始める時間が大変遅くなってしまいました。時には、午後3-4時ごろまで外来診療を行い、その後手術を開始し、深夜まで行わないと手術が完了しないという事態にまで至りました。整形外科医の気力・体力にも限りがあります。過重労働といわれる中で、手術を確実安全に行うということが不可能となりました。そのため、やむをえず、外来で診療する患者さんの数を制限する必要がでてきました。

地域の医療機関で、診療を受けていただき、富山市民病院での治療が必要と判断された患者さんを治療することで、より効率的な診療が出来ます。地域の医療機関と市民病院が各々の持つ機能を発揮するためには、役割を分担する必要があります。

折角当院を受診されても、診療をお断りすることがあって、大変申し訳なく思っております。医師不足の中で、十分な医師を確保できないことも原因であります。富山市民病院は、皆さんに適正な医療を提供できるようにこれからも努力いたしますので、ご理解をお願いいたします。

連載

ボランティア・エッセイ46 病院ボランティア 石森 貞夫

『親への感謝』

■8月8日を「親に感謝する日」に制定する運動は、平成15年に社団法人あゆみの箱会長・森繁久弥氏が、日本の親に感謝する会を主唱して、全国の著名人に呼びかけて結成され、パパの日・ハハの日すなわち8月8日を祝日にするために努力されて、その趣旨は講談社より出版された「世界一泣ける父母への手紙」をこの程読みました。

★どんな人生にも必ず父母の愛が見えて、親への感謝の心が満ち溢れて、孫や子に伝えたい感動があり、涙で綴られていました。母が明治生まれで、礼儀作法のしつけが厳しい人とか、芯の強い女だとか、祖父の五訓で「君には忠義・親には孝行・兄弟仲良く・人には親切・自分には誠」を人生訓にして成功した例や子供は父母の背中を見て育つ、教育こそが財産と将来のためには学問に生きよと励まされた事が、自分の成長の基礎が出来たと反省されている。

●「初心忘れず」松下幸之助氏の感謝の言葉を掲げて、人が嫌がること、自分がされて嫌なことは、他人にするな、弱いものいじめは断じて許さないと、父に諭されて他者への思いやりを心がけて、子供をしっかり叱咤する親には愛情と忍耐を教えられ

る。戦中戦後の食料事情が悪化した時代を、必死に働いて育てた両親への感謝文を綴り、親の愛情に報いるために、「親を大切に作る運動」を通じて、世の中に貢献したいと願う人々、一瞬一瞬を大切に生きること、これからこれからと念ずれば花が開く、来る人もくる人も福の神、などと思いを両親から教わり、人と接する時は真心でと親の願いが、今日の自分の人生に支えとなったと著名人の方々が感想を述べられ、涙あり笑いあり、在りし日の両親を偲んでいました。

▼私事ですが、父が3年間市民病院に入院して平成元年78歳で死去、お世話になった気持ちからボランティア活動を始めて9年が経ち、今年の9月には母が98歳で老衰死没して初めて両親の恩に想いが廻りました。日本は63年前の戦後の苦しい生活で、食料・住宅難のなか私達は疎開先から焼けて復興途上の富山で、敗戦後の混乱と飢餓のなかで、明治・大正・昭和・平成を経験した両親は力強く生きて、私達子供らのために頑張ったことでしょうか。今日の平和な世の中で、孫達は戦争時代の日本の苦悩をわからないでしょう。

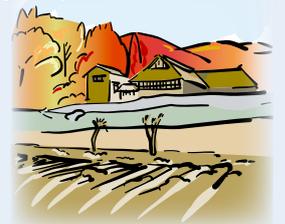
□世間様に迷惑をかけず、世のため

人のためになるよう、しっかり仕事をしなさい、開業資金として家売って調達した母の恩を忘れない社長さん、一つの事をやり始めたら、絶対に止めないこと、父の恩は山より高く、母の恩は海より深しなど、著者達は回顧の思出を述べながら「人様の迷惑になるような事はするな、頭は低くして、人様に対して礼を尽くせ」と両親の教訓を、人生の成功のポイントとされています。

◎最後に自分が老いて始めて、両親の生き方の凄さをわかり、最も尊敬する人物は自分の親であり、一日一日を大切に、ひたむきに生きよ、家族を愛し、見返りを求めるな、苦境に直面してもあわてず、人事を尽くして天命を待て、など人生あくせくせず、他人に迷惑をかけず、少しでも社会に役立つような生活を目指して、老後を安心して生活出来るように、親への感謝を忘れないようにしましょう。

資料：『世界一泣ける父母への手紙』

講談社より



お知らせ 『緩和ケア病棟 ボランティア募集』 緩和ケア病棟ボランティア講座のお知らせ

富山市民病院では、平成21年4月から緩和ケア病棟が開設になります。

開設にあたり、緩和ケア病棟のボランティアを募集しています。緩和ケア病棟では、医師・看護師の医療スタッフだけでなく、ボランティアの方もチームの一員として患者さまやご家族の日常生活の援助を行います。具体的なボランティア活動としては、患者さまやご家族の話し相手、ティサービス、もてなし、環境整備などです。つきましては、緩和ケア病棟のボランティア講座を右記の通り開催いたしますので希望される方は是非ご参加ください。(年齢・性別・経験は問いません)

日時 平成21年2月14日(土) 午後1時30分～3時
2月28日(土) 午後1時30分～3時
3月14日(土) 午後1時30分～3時
3月28日(土) 午後1時30分～3時

場所 富山市民病院 3F 集団指導室
内容 1回目 緩和ケア病棟のボランティア活動とは
2回目 緩和ケア病棟の特性 ルールとマナー
3回目 がんと痛みによりそう
4回目 体験談を語る

申し込み

電話で富山市民病院 看護部へ Tel 422-1112

■ 今月のふれあいギャラリー(玄関ホール2階)

◎12月5日(金)から2月27日(金)までの予定

期 間	テ ー マ	
12月5日(金)～ 12月26日(金)	書道「年を彩るかな書作品展」	帳山真実子
12月26日(金)～ 1月16日(金)	絵画「世界の風景と花(華)」	久米 武
1月16日(金)～ 2月6日(金)	バッチワーク	水野 悦子 金田 明美
2月6日(金)～ 2月27日(金)	写真展「蜃気楼」	石森 貞夫

◎展示作品紹介

- 10月3日～10月24日
池田るみ子絵画教室 ハガキ展(池田るみ子)
- 10月24日～11月14日
パソコンで書いた絵・習字(富山いきる場センター)
- 11月14日～12月5日
写真「京の紅葉 7」(中村 勇)



ふれあいギャラリー：「パソコンで書いた絵・習字」
(富山いきる場センターさん)



ふれあいギャラリー：「池田るみ子絵画教室ハガキ展」
(池田るみ子絵画教室生徒さん)

お知らせ ～聞いておきたい!がんのお話～ がん患者・家族のための講座開催のご案内

がん相談支援センターでは、11月より6回シリーズでがん患者・ご家族を対象とした講座を開催します。毎回、それぞれの分野での専門スタッフががんに関する内容を、わかりやすくお話いたします。日頃の疑問や不安にもお答えいたします。1回のみ参加も可能です。お気軽にお越しください。

事前にお申し込みいただいています。

参加ご希望の方がいらっしゃいましたら、お気軽にふれあい地域医療センターへお問い合わせください。

TEL 076-422-1112(代) 内線 2103

時間：午前11時～11時半 場所：職員休憩室

開催日	内 容	講 師
11月28日	胃がん・大腸がん・乳がんについて	泉 良平 (病院長)
12月5日	痛みを和らげる方法～お薬のお話	宮津 見佳 (薬剤師)
12月12日	がんと上手に付き合う方法	市橋 啓子 (緩和ケア認定看護師)
1月9日	がんと食事～食べることへの工夫	帳山 和美 (管理栄養士)
1月16日	在宅で受けられる医療・生活支援サービス	塩澤まゆみ (がん相談担当看護師)
1月23日	医療費控除のしくみ	岩田 大史 (医療ソーシャルワーカー)

■ 今月のイベントと院内の動き

- 11月4日(火)：院内で活動されているボランティアの皆さんとの「ボランティア交流会」が開催されました。
- 11月29日(土)：西病棟7階の改修工事が完成しました。
平成17年度から始まりました病棟改修工事がついに完成しました。長い間ご迷惑をおかけしました。
- 10月15日(水)～11月7日(金)：中国・姉妹都市の秦皇島市にある第一医院から2名の医師が来院され、当院で研修されました。
- 11月20日(木)：早朝に市民病院付近の清掃活動を行いました。
- 12月11日(木)：第2回接遇力講演会「経営向上に生かす医療接遇のあり方」が開催されました。
- 12月12日(金)：小児病棟クリスマス会が行われました。
- 12月16日(火)：「三味線ライブ」が17時30分から総合案内エントランスホールにて開催されました。
- 12月17日(水)：第3回経営改善委員会を開催されます。
- 12月19日(金)：サンタクロースに扮したボランティアが病棟を訪ね、クリスマスの雰囲気盛り上げます。

総編集長：病院長 泉 良平

編集部：山城 岩松・齋藤 勝彦・石森 貞夫
山岸 節子・川口 宏・荒木久美子
宮田真理子

発行：富山市立富山市民病院広報委員会
〒939-8511 富山市今泉北部町2-1

<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>

電話 076(422)1112

FAX 076(422)1371



富山市立 富山市民病院

